ダンプの列、残土の山

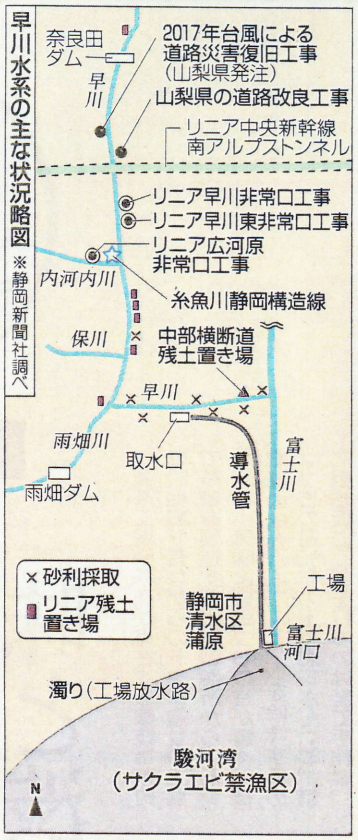
早川本流ルポ

サクラエビ異変

土ぼこり舞う川沿い

駿河湾サクラエビの不漁などとの関係が指摘される富士川水系の濁り。濁りの出どころとされた雨畑ダム（山梨県早川町）に加え、上流の早川本流（同町）でも強い濁りの存在が明らかになった。現場で何が起きているのか。3月中旬、早川をさかのぼり現状を取材した。

リニア中央新幹線のトンネル工事残土置き場周辺をひっきりなしに行き交うダンプカー。昨年12月以降もこの光景は変わらない＝山梨県早川町（写真の一部を加工しています）



富士川との合流地点から早川上流部に通じる県道37号。最初に気付くのは土ぼこりをあげながらすれ違うダンプカーの多さだ。川沿いでは工事現場や採石プラントなどが少なくとも10カ所以上。昨年末に最初の取材をしたが、変わらない光景だ。

合流地点から約1キロ上流には、河川敷に積まれた高さ十数メートルの〝ピラミッド群〟。中部横断自動車道のトンネル工事で出た残土の山が見える。

雨畑ダムに続く雨畑川と早川の合流地点まではさらに約8キロ。民間の水力発電所や、採石業者のプラントが複数ある。操業する平日の川の水はすでに濁り気味。周辺は地下の導水管が張り巡らされていて、水の流れは非常に複雑になっている。

早川中流部には、リニア中央新幹線のトンネル残土置き場が河川敷に数カ所。リニアの本坑から地上に伸びる「早川非常口」などの工事現場では大手ゼネコンのキャッチコピー「地図に残る仕事」が書かれた看板も。周辺を走るのは「中央新幹線」と書かれたオレンジ色のプレートをフロントガラス内側に掲げたダンプカー。積んでいるのは「グリーンタフ」と呼ばれる青緑色の土だ。

近くでは山梨県発注の道路工事現場が複数あり、重機が川床をさらう。周辺を糸魚川―静岡構造線が通り、土質のためか所々の川沿いで自然の土砂崩れも見受けられた。

富士川との合流地点から約30キロ。早川上流にある山梨県管理の奈良田ダム。導水管の排水があり、濁りが強い日もある。

早川を昔から見てきた地元の男性（74）は「自然の濁りは2、3日たてば消えるが、ここ10年ほど前からはいつまでたっても濁りが消えないようになった。人の手が入り過ぎ、自然を変えてしまっているのだろうか」と不安げだ。

（サクラエビ異変取材班）

県内関係機関による富士川水系調査

由比港漁協	2018年夏ごろ	漁師らが、富士川河口や清水区蒲原の工場放水路沖の水の濁りに気付く
	11～12月	富士川河口沖、支流の早川、蒲原の工場放水路沖で底の泥を採取し、民間機関に成分調査を依頼
	2019年2月1日	泥の成分調査結果を公表。有機物汚染は確認されなかったが、海底への細かい粘土質の粒子の堆積が明らかに
静岡県	2018年12月ごろ	山梨県と富士川の濁りの原因究明に向けた協議開始
	12月25日	富士川水系の濁りの調査開始。19年3月末までに本流と支流で計9回調査
	2019年1～3月	富士川水系の濁りの調査結果を公表。支流の早川で強い濁りが発生していることが明らかに
	3月26日	川勝平太知事が会見で、富士川水系の濁りとJR東海によるリニア中央新幹線工事の影響について言及

プランクトンと濁りの調査必要

静岡大グリーン科学技術研究所
カサレト・ベアトリス・エステラ教授
（海洋生物学）

工場放水路からいつから濁りが出ていたかは不明だが、過去には問題視されず、軽視されてきた。今クローズアップされているのは、温暖化問題とローカルな環境問題が重なり、「負の複合相乗効果」の結果、サクラエビの資源量減少の一因として顕在化した可能性が考えられる。

人でも悪い薬を併せ飲めば1＋1＝2とはならず、それ以上の甚大な影響が体に出る。例えればそのようなことだ。こうしたことは生物界では多い。サンゴでも、高水温と高濃度の硝酸塩が重なるとほぼ回復できない。

サクラエビは6月ごろに産卵する。卵からかえって数週間後、自分で餌を捕食できるようになった幼生が食べる植物プランクトンの量は非常に重要だ。

駿河湾の海水温は上昇している。最も海水温が下がる2月の月平均海面水温は、2017、18年は過去5年間で最も高い14・2度（内浦湾）をともに記録した。冬場に海面水温が高ければ海中で対流が起きにくくなり、植物プランクトンの成長に必要な栄養塩の深層からの供給が限られる。そこに海面の濁りが日陰を作り、植物プランクトンが光合成ができず、春に起きる大発生が減少する。環境の過酷さの「相乗効果」が成育に影響しているのではないか。近年の魚体の小型化も食物不足が関係している可能性がある。

これらは現状では推測でしかない。不漁の原因を科学的に探ろうとするのであれば、駿河湾の植物プランクトンや栄養塩の深度別の調査が必要だ。調査のためには、海水温上昇と濁りがどのような影響を及ぼす可能性があるかを理解しながら研究計画を立てることが必要ではないか。